

丸山知事

避難対策が重要ポイント

島根2号機再稼働で言及

島根県の丸山達也知事が28日、原子力規制委員会による新規制基準適合性審査が進む中国電力島根原発2号機（松江市鹿島町片匂）について、避難対策が再稼働の是非判断の一つになるとの考えを示した。



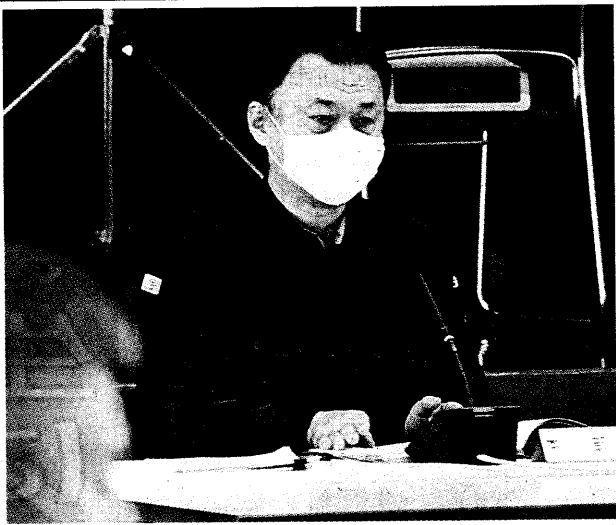
28日にあった県原子力防災訓練終了後、報道陣の取材に答えた。

島根2号機を巡っては、地震や津波対策などの審査が進んでおり、再稼働を目指す中国電力の清水希茂社長が16日に「終盤にきている」と話すなど、審査合格が現実味を帯びる。

こうした中、丸山知事は避難対策について「稼働の有無に関係なく取り組まないといけない課題だ」として

「と話すなど、審査合格が現実味を帯びる。こうした中、丸山知事は避難対策について「稼働の有無に関係なく取り組まないといけない課題だ」として

（原田准史）



国や関係自治体と開いた原子力防災訓練のテレビ会議に臨む丸山達也知事（松江市殿町、県庁）

原子力防災訓練で通行止めとなった区間に代わる避難ルートを確認する島根県職員（松江市殿町、県庁）

た上で、「避難を円滑に行う準備ができていくかどうかは（再稼働判断の）重要なポイントの一つだ」と強調した。

また、対策の評価をどの機関が実施するかどうかにについては、国と島根、鳥取両県、両県内6市でつくる島根地域原子力防災協議会で対応を協議していること

鳥取県側でも 初動対応確認

原子力防災訓練

鳥取県は28日、島根県とともに原子力防災訓練を実施し、米子市と境港市をテレビ会議でつなぎ情報の収集や共有など、初動対応を確認した。

訓練には県や両市から約120人が参加した。島根県側との合同対策協議会に続いて行われた県・市合同災害対策連絡会議では、6カ所をテレビ会議でつ

画や方針をつくる点で、判断は国を含めた関係機関が行っていくことになる」と話した。

この日の訓練では、大規模地震との複合災害により、島根2号機の原子炉注水機能が失われたとの想定で、初動対応を確認した。

県や県警、自衛隊が、通行止めとなった県道に代わる避難ルートを確認したほか、国や鳥取県も参加したテレビ会議で、5〜30分圏（UPZ）の住民が屋内退避する場合に、放射線の影響を考慮し新型コロナウイルス対策で有効とされる換気をしないよう徹底することを申し合わせた。

ないで協議。米子市の伊木隆司市長は、甲状腺被ばくを防ぐ医薬品「安定ヨウ素剤」の緊急配布に備えた医師の確保を県に要望した。平井伸治知事は両市に対し「落ち着いて行動するのが大切。正しい情報を出すようお願いする」と述べた。

鳥取県は31日、新型コロナウイルス対策として従来のバスでの避難ではなく、自家用車を使った避難訓練初めて実施する。

（藤井俊行）